



BitCapitalVendor

ブロックチェーン

デジタル資産管理エンジン白書



BitCapitalVendor

V1.2

bitcv.com

2018.2.10

要 旨

ブロックチェーンのデジタル資産の対象は初期の先駆的な者から、今日の公共投資者へと、非常に発展してきたと言える。しかし、我々は、ブロックチェーンのデジタル資産への投資配置や個々のサービスの分野において、依然として存在する多くの問題点と不足点について、ブロックチェーンの思想とは相反している部分があると感じている。ブロックチェーンが追求しているのは、媒介や透明化、そしてデジタル資産の早期投資であるが、我々は多くの媒介、人、ニュースソースに依存し、不透明な行動を目の当たりにしている。そしてそれらは多くのリスクを抱えているが、今後の資産配置に関しては、更に一定の空白があると言える。将来 10 兆ドルに達する可能性のあるデジタル資産市場は、データ資産管理の巨大な価値が存在し、取引や支払い以外の資産管理、標準化サービスプロセスの需要も拡大し、より良い産業生態系を促進することが可能である。

ブロックチェーンの技術は様々な分野に更に浸透し、ブロックチェーンの技術、人材、サービスはすべて早期の段階から存在している。大量のプロジェクトは計画から発展後までの各種サービス、技術、ツールを必要として、アプリケーションブロックチェーンを満足し、ブロックチェーン時代のニーズを拡大するのである。

BitCV チームはファクトライズド・パワー・構造技術を利用し、インターネット技術、投資、金融、メディア分野の蓄積と優位性は、既存のブロックチェーン技術に基づいている。下層の底上げと並行開発は、イーサリアムプラットフォーム開発の高い効率のクロスチェーンメモリ及び兌換技術を基礎とし、低

層資産管理チェーンを実現し、続けて上位応用ツールプラットフォームの開発をサポートする。そして事業の実現投融資と資産管理の過程で、必要なプロジェクト技術ツール及びサービスを実現し、プロジェクトサービス事業者、かつ投資者サービス、多元化サービスデータ資産管理体系化の建設を目指し、ブロックチェーンデジタル資産管理で初めてのサービスエンジンプラットフォームを作り上げた。

BCV Token は資産管理サービスエンジンに基づいて、Bit CV の経済システムに機能する。デジタル資本管理とサービス過程で使われる様々なサービス料金とプラットフォーム使用料の支払いに用いられ、媒介となる点と点のサービス料金の支払いも含まれる。

目 録

要 旨.....	2
第一章、プロジェクトの背景	7
1.1、ブロックチェーンデジタル資産配分の爆発的な発展	7
第二章、デジタル資産管理のマクロ的現状	9
2.1、投融資プロセス管理.....	10
2.2、総合デジタル資産管理.....	10
2.3、まとめ.....	12
第三章、デジタル資産管理の方策.....	13
3.1、自運営プロジェクト投資・融資プラットフォーム.....	13
3.2、デジタル資産 OMO(Online-Mobile-Offline)サービス.....	16
3.2.1、プロジェクト評価モデル.....	16
3.2.2、投資者評価モデル	17
3.3、デジタル資産 OMO(Online-Mobile-Offline)サービス.....	17
3.4、BitCV デジタル資産管理チェーン	19
第四章、プロジェクト技術の構造と運営モード.....	23
4.1、BitCV デジタル資産管理チェーンの設計.....	23
4.2、信頼と展開できるマイクロサービスの構造設計.....	29
4.3、コミュニティ化の運営モード	31

4.3.1、コミュニティコンセンサスの価値の発見.....	31
4.3.2、ポイント・ツー・ポイントの専門的サービス	32
4.4、未来の製品への企画.....	32
第五章、BitCV 財団のガバナンス構造.....	34
5.1、BitCV 財団の設定	34
5.2、BitCV 財団のガバナンス構造.....	34
5.3、BitCV 財団の貿易安全と監査.....	35
5.3.1、BitCV 取引の安全性.....	35
5.3.2、監査	35
第六章、チームと投資者についての紹介	36
6.1、核心チーム	36
6.2、プロジェクトの顧問.....	38
6.3、組織.....	40
第七章、デジタルトークンの発行と使用	41
7.1、BitCV デジタルトークン BCV についての説明	41
7.2、BitCV デジタルトークン分配方針	41
7.3、BitCV トークン発行企画.....	42
7.4、BitCV トークンの利益モデル、支払い方法と再購入企画.....	43
第八章、プロジェクトのマイルストーン及びロードマップ	45

第九章、法務関係とリスク開示書.....	46
9.1、BitCV デジタル資産の法体系.....	46
9.2、リスク開示.....	46
9.3、免責事項に関する声明.....	49

第一章、プロジェクトの背景

1.1、ブロックチェーンデジタル資産配分の爆発的な発展

2009年ビットコイン誕生以来、数年間に渡り発展を経て、特にここ3年は、ブロックチェーンデジタル資産配分が徐々に広く認められるようになった。この業種は迅速に発展したと言える。デジタル資産の種類に注目すると、今日までに全世界でその数は1000を超え、そのタイプもアルトコイン（ライトコインなど）と、価値に頼る革新的ブロックチェーン（イーサリアムなど）に分けられる。時価総額でもその成長の勢いは著しく、2013年9月では15億ドルだったものの、2016年9月には120億ドルに達し、今日までに5000億ドルを超えた。その中でビットコイン時価総額は3000億ドルを占め、他のデジタル資産は2000億ドルを占める。言い換えれば、過去の4年間で、デジタル資産の時価総額は350倍以上に成長し、最近の1年間でも40倍以上に変化した。

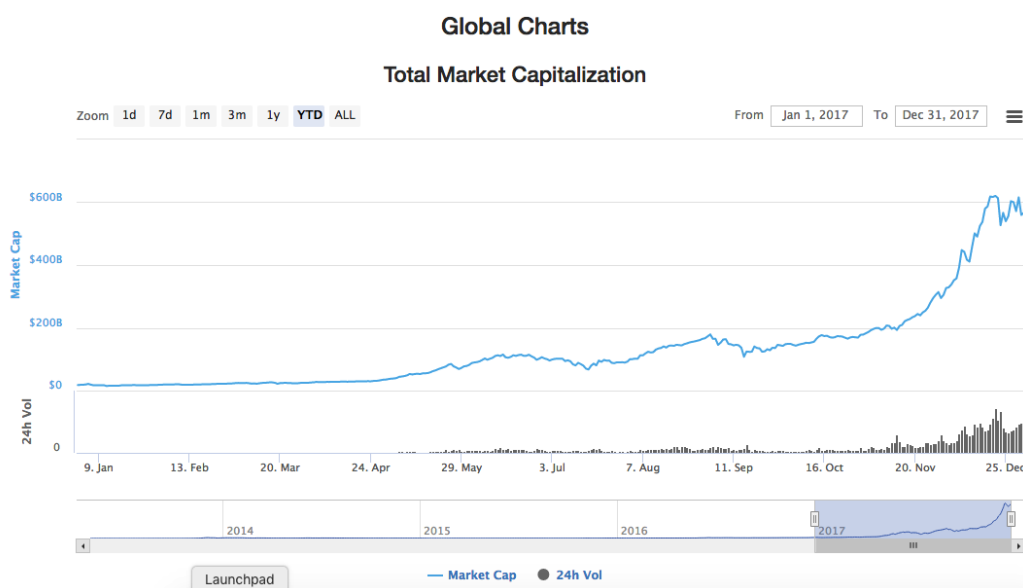


図1 全世界デジタル資産の時価総額 出典: coinmarketcap

数百倍の成長をしてきたといえども、デジタル資産管理は将来依然として相当大きな市場空間がある。世界銀行の公式サイトと中国国家統計局のデータによると、世界の GDP 総額が 100 万億ドルに近づき、中国、アメリカの GDP はそれぞれ 12、17 万億以上とされた。そして、投資可能な資産を見てみると、目下アメリカ、中国、日本、フランスの株式市場の時価総額がそれぞれ 27 万億、7.32 万億、4.96 万億、2.16 万億である。国民貯蓄に目を向けると、2017 年 5 月まで、中国国民の貯蓄額は 62.6 万億人民元、およそ 10 万億ドルに達し、純貯蓄額（貯蓄額-負債）は 4 万億ドルに達した。

中国国民の純貯蓄額と株式市場の時価総額は、GDP の規模に相当し、10 万億を超えた。全世界の人々の貯蓄額と投資額度を推計してみると、全世界の GDP の半分、即ち 50 万億ドル級に達する。しかし、今デジタル資産の時価総額は 5000 億ドルを超えたばかりで、投資可能な額度のわずか 1%であることが分かる。1%しか浸透していない市場にとってはまだ未熟であると言える。今後より多くの投資者がデジタル資産に関連する投資に参入すると予想でき、直接的にせよ間接的にせよ、ビットコインやその他優良なデジタル資産は人々の貯蓄の新たなスタイルになる。

業務資産や時価総額の急速な成長の背後には、大量のプロジェクトの誕生がある。その中には単純ブロックチェーンプロジェクトや、既存のインターネットブロックチェーン化、伝統産業のブロックチェーン化もあるが、それに関わる資産管理サービスは必要な改善を得られず、基本的設備や技術も揃っていない。そして上層のアプリ開発の急速な発展に応じられず、より整った資産管理を作り上げるのに必要な人材サポートも存在していない。これが BitCV プロ

ックチェーン産業管理チェーンの解決すべき問題である。

第二章、デジタル資産管理のマクロ的現状

デジタル資産はブロックチェーンを基に誕生し、ブロックチェーン自体も人々の生産関係に深く影響と変化を与えた。底層のパブリックチェーンと基本的設備を除き、応用ブロックチェーンに依存しているのは以下 2 種類の形態である: 一つはプロジェクト自身がブロックチェーンで解決や強化すべき支払いシステム、もう一つはプロジェクト自身の価値の増加に伴うデジタル資産システム。しかし、日に日に成長するデジタル資産取引に伴うのは急激な投融資管理の不足や、投資者関係管理、人材ニーズ、プロジェクト技術サービスなどであることが見て取れる。デジタル資産の成長は収益の増加をもたらす一方、その不規範性は各方面のリスクを増やした。

「デジタル資産管理 (Digital Asset Management, DAM) とは、デジタル資産に対し、デジタル資産やデジタル資産形態の株式、債権、オプション、他の財産権、資産組合への委託管理と運用、処分に通し、財産の保存や創造を目的とする総合金融サービスである。デジタル資産管理の市場の主な形式は基金業務、委託資産管理業務、信託業務とされる。」デジタル資産管理は非常に大きな産業で、その規模は軽視できない。しかしお財布アプリ、支払い、取引所以外、他のデジタル資産管理専門サービスはかなり未熟であり、特に技術サービスが普遍的に足りないと言える。その原因は、デジタル資産管理が伝統的な資産管理に比べ、より技術に依存していることが挙げられる。二方面に分けて

分析すれば、一つ目は投融資プロセスの管理、2つ目は総合デジタル資産管理である。

2.1、投融資プロセス管理

今日、デジタル資産の投資や獲得は、マイニングを除き、以下の方法も存在する。最も一般的なのが取引所とプロジェクトオフィシャルサイトでのクラウドファンディング。ここではプロジェクトオフィシャルサイトでのクラウドファンディングについて簡単に考察する。

多くのプロジェクトにおいて、オフィシャルサイトの兌換操作は相対的に未熟で、一般にプロジェクト白書を発行し、単純な紹介サイトを作るのみで、兌換へのルートがなく、投資者との関係保護を行わないのが普通である。

さらに多くの価値のあるプロジェクトは、デジタル資産化の考え方と方法、技術さえもない。将来、多くの商業モデルとサービスは、今日のインターネットの基に構成しなければならないように、ブロックチェーンを基礎に組み立てられるため、このサービスの価値は明らかである。今日のニーズが急激に増長しているため、潜在能力が巨大だと考えられる。

2.2、総合デジタル資産管理

投融資の他、デジタル資産の時価総額の急激な増長に伴い、資産管理の業務形態も豊富になり、投資者のニーズもさらに多様化すると考えられる。デジタル資産の配置も発行市場と流通市場に限られなく、各節目や方面のプロサービス創造活動や、価値増加の段階もさらに明確になる。デジタル資産のエンドポ

イントにカテゴリ管理と投資ルートを提供し、デジタル資産配置ツールを開発して、クリエイティブな製品に投資を促すことは日増しに重要となる。投資者とデジタル資産のことなる属性によって、異なるデジタル資産を配置することも業務上の行為となり、システムにより頼って実現すると思われる。それもデジタル資産管理の核心的な競争力である。

デジタル資産は技術から生まれたため、他の資産管理と比べれば、分野と業種、技術の境を越える特性を持っている。従業員や製品開発人員として、必要なのは金融商品管理の経験と理念のみならず、同時にデジタル資産管理の技術に関する全面的に理解であり、デジタル資産マネジングツールを柔軟に使えることも大切である。それに応じて、BitCV は大量のツールを提供し、投資者に媒介的な資産管理サービスを提供する。

デジタル資産自身の価値は増加すると予想できるが、多くの投資者はデジタル資産をお財布アプリに貯めることになる。BitCV は大量の投資者データとスターティングプロジェクトリソースを有し、すでに安定した投資基礎を備えているため、お財布内のデジタル資産価値の増加が容易な操作で行えることと変化した。リスクが低く、価格変動が小さい投資者にとって、デジタル資産付加価値の管理は必要なサービスとなった。BitCV は、投資者が事情に詳しい状態で参与してきた場合、BitCV の提供する投資目標と資産を購入する。その他、BitCV はプロジェクト売買などの資産管理手段を通して資産価値の成長をサポートする。当然のことながら、どんな投資をしても、明白ではっきりとしたプラットフォームが必要だと考えられる。BitCV は技術のボトムサービスと人工的サポートサービスを担っている。

2.3、まとめ

デジタル資産管理の現状について今日、圧倒的多数は依然としてデジタル資産の大量な投機売買にとどまり、お財布機能や支払いなどの分野が急速に発展してきた以外に、応用と専門的な金融ツールはかなりの初級レベルにあると言える。デジタル資産が数十、数百倍の規模で増加する時、デジタル資産の種類は増え、投資者の参加に伴い、このようなニーズも急激に増加する。デジタル資産の管理意識やデジタル資産管理の手段及び業務サービスが不足した場合、この産業は今後の見通しは明るいものではなく、大きな曲折さえ現れる可能性も高いと考えられる。

BitCV デジタル資産管理プラットフォームへの希望については、我々はプロジェクトの開始から発行まで、そのプロジェクトと投資者にサービスを提供し、システムの規範化とブロックチェーン技術に基づき、デジタル資産管理サービスの各段階における媒介金融機関不信や信頼性、透明性の問題について解決しようと考えている。同時に、技術的な実現を元に、人と専門的なデジタル資産管理サービスを提供し、産業生態がよりよく発展するように努める。

第三章、デジタル資産管理の方策

プロジェクトにおける資産のデジタル化プロセスには、数多くの技術サービスが必要である。具体的には二つの要因がある。一つは、デジタル資産プロジェクトの実施には元々大量の技術上の知識と経験が欠かせないということ。もう一つは、資産化と資産管理のプロセスにおいて、多くの技術とサービスにきちんとした基準が設けられていないことである。これらは我々に非常に多くのチャンスをもたらした。

3.1、自運営プロジェクト投資・融資プラットフォーム

現在、デジタル資産最大の投融資は取引所であるが、プロジェクトと投資者は基金を建立するのも、プロジェクトへ投資するのも、初期の段階で勢いよく行っている。そうした投資は、主流な投資行為の一つとなるであろう。しかし、プロジェクトそのものの不完備性と、投資者のプロジェクトに対する全面的かつ直観的な理解の欠如、プロジェクトに対する進捗調査不足及びモニタリングに投入されたデジタル資産の安全性の不確定さとプロジェクトの資産口座の状態など、具体的には以下の問題が挙げられる。

- 1、大多数のプロジェクトは、如何にしてブロックチェーンに結びつくか理解せず、資料の準備には基準がなく、公式ウェブサイトの制作に手を抜いている。

- 2、融資の効率が低く、投資や引受けを記録する統一の窓口が無く、情報が分散しており、ミスが生じやすい。

3、ブローカー側と投資者側の間のポイント・ツー・ポイントのサービスであり、プロジェクト側と投資者側とのポイント・ツー・ポイントのサービスではないため、受け取り形式が単一であり、誤操作や損失が発生しやすい。

4、投資者に対する管理は通信ツールに依存する。投資の加入者数に制限が設けられ、管理が大きく分散されている。

5、投資者には資金集めのプロセスや段階、割引、価格、退出の状況が不透明であり、進捗や状態を把握できず、プロジェクトチームとの直接的な交流もできない。

6、プロジェクト側と基盤投資者側が融資全体の進捗を把握しにくく、そのペースをコントロールすることも難しい。投資者にとっては資金の流れをしっかりと把握することができない。

上述の問題をかんがみ、BitCV はソリューションを提案する。デジタル資産の早期資産購買が技術面において実施可能な標準的行動となる。

以上の六つの問題に対し、BitCV デジタル資産サービスエンジンは融資とサービスのプロセスにおいて以下のようなメリットと解決方法をあげる：

- 1、 SaaS 化したサービスを用いて、基礎情報と素材さえ入力すれば、短時間で綺麗なプロジェクト公式サイトを作成でき、自身の TGE (トークン Generation Event) ウェブサイトを取得できる。
- 2、 プロジェクトリンクや招待リンクの公表を通じ、簡単にウェブサイトに入れる。プロジェクトの状況、出来事、白書なども揃い、しかも相応する投資者関係プラットフォームも備える。
- 3、 投資者は現在の資金集めの段階に応じて、プロジェクトサポート

のデジタル資産を投入する。操作と金額の記録が分かりやすく、多種の資産における兌換操作も便利である。

- 4、 投資者は各プロジェクトのデータ及び進展段階を調べることができる。そのためデジタル資産に対する信頼が生まれ、目下の収益に基づき、プロジェクト発布・準備の状況を再現する。
- 5、 プロジェクトの発布・進展から、どの段階に進んだか、価格はいくらか、どれほどの割引があるのかなど、投資者自身が参加しているプロジェクトの進捗を詳細に知ることができる。
- 6、 プロジェクト側と基盤投資者側は、融資のペースに関する計画が明確であり、プロセスをコントロールして、現在の投資者と、投入したデータ状況、進展などを詳細に知ることができる。全ての投資者のデジタル資産がブローカーの個人のアカウントを経由しないため、資金の安全が保障される。
- 7、 資本分析とマイニングを実現する。プロジェクト当事者が資金配分と割当てトークンを生成した後、BitCV はブロックチェーンデータの分析を通じて資本フローを追跡して分析する。

具体的な応用では、まずオープンにしてから、投融資を始める。このように、初期の資産引受けのプロセスにおける規範性と安全性の問題を解決する。それはデジタル資産引受けのユーザーの規模の拡大と資産引き受けの公開性・安全性に非常に重要かつ積極的な役割を果たしている。

独立したプロジェクトごとに、その情報とデータが他のプロジェクトと区別され隔離される。プロジェクト側にとって、ドメイン名からプレゼンテーショ

ンまで、あらゆるものが独立的かつ唯一なものであり、専門的かつプロフェッショナルなイメージが作られる。ユーザーにとっても、不必要な情報からの妨げを避け、現在のプロジェクトそのものに集中することができる。

3.2、デジタル資産管理の評価・測定プラットフォーム

3.2.1、プロジェクト評価モデル

BitCV はデジタル資産サービスエンジンとして、システムサポートプラットフォームを建設する以外に、デジタル資産の融資を透明化する。同時に、既存のプロジェクトこれまでの資料の収集、発展分析を元に、BitCV がサービスを提供しているプロジェクト、及び投資者の多方面のデータの保存と分析を行う。また、ビッグデータと人工知能技術に基づき、プロジェクトの価値発見、プロジェクト・投資者への評価を行い、伝統的な金融分野における多くの従業経験と結びついて、BitCV 特有のリスク評価シートとリスクコントロールのモデルを研究・開発する。

これには一連の技術基準とモデルの設定が必要である。チームメンバーのこれまでの経験と背景から、プロジェクトの応用領域と資源の準備状況から、そしてプロジェクトの資料と白書の情報から、通常条件と専門家の評価・測定の他に、同類のプロジェクトの総合的なランキングも欠かすことができない。初期の段階で人的関与はあるが、コミュニティの投票を通して、後には完全自動化プロセスとなる。各次元の評価・測定のほか、過去のモデルとデータに基づく分析もある。例えば、機械の学習モデルを利用して人工知能の評価と将来性の予測を行う。そのプロセスには数多くの分析とデータの計算が不可欠である。

これに関して、BitCV チームはかなり多くの実績と経験を有している。

3.2.2、投資者評価モデル

起業家がブロックチェーンデジタル資産分野になだれ込んだと同時に、より多くの投資者もこの分野に介入した。しかし、この分野ではハイリターンが期待できる一方で、ハイリスクでもある。特に短期的には、ハイリスクの可能性が非常に大きい。そのため、投資者にも評価モデルを設立する必要がある。そのモデルには、投資者のデジタル資産とブロックチェーン分野への理解が含まれ、他の分野における働きや経歴に対する分析も行わなければならない。職業経験はプロジェクトそのものを理解する貴重な能力であり、そこには投資者の投資予測の調査やそのリスクに耐える能力のモデル採点も含まれる。当然ながら、その各プロジェクトへの投資行為を考察し、相応するデータの分析結果を提出し、投資者に対して適切な投資アドバイスを与える必要がある。

評価・測定を通じて、デジタル資産領域のプロジェクトと投資者の基準が実際に作られるのである。

3.3、デジタル資産 OMO(Online-Mobile-Offline)サービス

BitCV はデジタル資産管理エンジンとして、技術サービスのほか、デジタル資産分野全体の互惠・協力を貢献する責任及び義務があり、しかもそれはプロジェクト側と投資者側に利便性を促進するためでもある。それには技術、教育、人材など各方面のサービスが含まれる。ここで説明すべてなのは、それらのサービスはすべて BitCV によって行われているわけではないということである。

BitCV は基礎的ツールとプラットフォームとして機能し、それらのサービスに便利さやデザイン規則を提供する。主に以下の点がある。

A、 伝統的資産ブロックチェーンデジタル資産化サービス

価値のあるインターネットプロジェクト、さらには伝統産業のプロジェクトに着目し、ブロックチェーンに結びつくことができるものに対する、プロジェクトの初期計画から取引所へ上場までの一連の養成サービス。BitCV は技術の面から参入し、計画から実現までの一連のサービスとツールを提供する。

B、 専門的資産管理サービス

資産配置投資組合は専門的なサービス及びツールが必要である。BitCV は資産管理ツールを用い、情報収集して、貿易リスクアセスメントを提供する。しかし、とりわけ重要なのは社会コミュニティにおける富の専門家に対して投資者の年齢、背景のほか、職業、婚姻、リスクなどにも基づいて資産配置のアドバイスをして、サービスを必要としている人たちには直接ポイント・ツー・ポイントで対応する。それがコミュニティ化運営モードである。

C、 投資者の教育もプロジェクト側の技術開発教育も含まれるブロックチェーン教育サービス。

- a) ブロックチェーン技術がなお初期段階にあり、さらに社会には未だブロックチェーンとデジタル資産に対する誤解が存在している。そのため BitCV が核心的ユーザーである投資者の立場に立ち、ツール使用しながら、モードのデザインを通して、ブロック

チェーンの発展と認識を紹介し、常識的な教育を行い、プロジェクトの背後になる基本的な概念と原因が理解されるようにする。

- b) 次は現在非常に不足している技術人材の養成である。初期のデジタル資産とブロックチェーンを開発する人材には、バックエンド技術と基礎言語という技能が求められるのが一般的である。現在のスマート契約の開発段階では、開発者への技術的な要求が下げられ、スクリプト言語と開発モデルを身につければブロックチェーンプロジェクトの開発に着手することができる。それらの面では BitCV は生態投資、規則とツールを設けることを通して新人を育成し、あるいは他の分野のサービス人材を転業させたり、企業内部の従業員トレーニングを行ったりする。

BitCV は、自らの努力を通して、デジタル資産プロジェクトの初期的な発布に力を添え、サービスプラットフォームを提供するだけでなく、技術開発から人材育成まで実行可能のシステムを構築することも望んでいる。こうしたやり方は領域全体の互惠・協力に有利である。

3.4、BitCV デジタル資産管理チェーン

ブロックチェーン技術はポイント・ツー・ポイントの支払いシステムをサポートし、また金融領域にも貢献している。そして、デジタル資産管理領域も、デジタル金融領域の子分野である。集中分散と改ざん防止という特徴を持つブロックチェーン技術は必ず役割を果たし、さらにボトム的作用を発揮しなければならない。我々のボトムがより便利で使いやすいになるように、

また関わるプロジェクトに利便性を与えるように、我々はBTHに基づいたBitCVデジタル資産管理チェーンを開発し、未来のデジタル資産管理に着目し、集中分散のボトムサービスプラットフォームを構築した。そこでSDK(Software Development Kit)を提供し、プロジェクト側をサービスの対象にし、デジタル資産管理がより効率良くて安全、信頼できるようにしている。

デジタル資産管理チェーンは資産管理サービスシステム全体に以下の四つの特徴がある。

1、集中分散

伝統的な資産管理行為に、中心部門からの大量の人的関与と審査行為が存在する。それに反して、BitCVデジタル資産管理のボトムは、ブロックチェーンとスマート契約技術に基づき、資産管理の毎回のデジタル資産の往来・取引がブロックチェーンに記録され、同時にスマート契約に予定されたロジックによって、自動的な実行が行われる。そのように、情報を偽造・改ざんすることが不可能なブロックチェーンの特徴を利用しただけではなく、仲介と集中的な審査を避けることもできた。たとえ人的サービスがあるとしても、専門家と投資者との間にポイント・ツー・ポイントで行われる。BitCVは技術的なプラットフォームとサービスのみを提供するのである。

2、透明性と信頼性

伝統的な資産管理の不透明性、即ち資金の行き先の不透明性が、資産管理のコントロールを失うことにつながり、さらには悪性の事件を招く場合もある。一方、BitCVデジタル資産管理チェーンに基づいては、投融資の資金の

行き先及び引換えが非常に明確で、調べることもでき、しかも偽造・改ざんは不可能である。資産管理の値上げによる収益や資金の出どころも明確である。それによって、資産管理により透明性があり、健全で信頼できるようになる。ブロックチェーンでは匿名がルールであるが、いくつかの資産について、実名が必要なものもある。例えば、ネットで資産担保ローンを借りる際の専用アカウントで、本当の資産所有者をたどることが可能である。実際にこれは、信頼性と透明性のニーズに答えている。一方、当然ながら、個人のユーザーには、そのプライバシーを匿名で保護しなければならない。

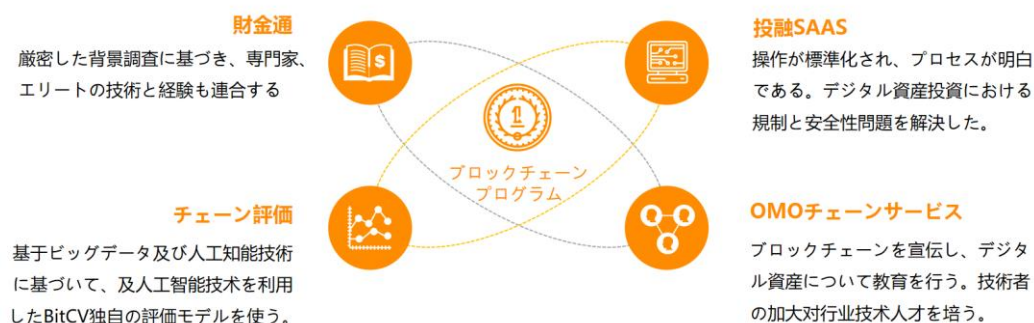
3、クロスブロックチェーン兌換

デジタル資産管理について、最も多い仕事は資産間の相互兌換である。そして、一般的な取引所と違って、相互兌換はBTC、ETH、USDTといった主要資産に基づくものである。そのため、資産管理プラットフォームではいずれのデジタル資産の種類も使用が認められる。ボトムがスマート契約に基づき、デジタル資産契約のパスワードを変えないままで、既存の電子マネーが既存または未来のいずれのデジタル資産或いはトークンを受け入れられる。例えば、現在のERC20型のトークンは簡単にイーサリアムウォレットに着金することができる。新しいERC20トークンの支払いに対しては、プロジェクトの構造を変えずに自動的に行える。よって、ユーザー自身のデジタル資産の種類を、サーバーでプロジェクトを作った際に設定でき、しかもユーザーが自動的な兌換を行うことができる。また、一般的なデジタル資産に対しては、キャッシュプーリングまたはインターレジャー・プロトコルを利用して、デジタル資産の類別を超えた支払いが可能である。

4、効率の良い取引

資産管理システム内部のデジタル資産の支払いと実際の入金に対し、伝統的なビットコインネットワークとイーサリアムネットワークに基づく、そのユーザーシステムは極めて良くない。そのため、資産間取引についても良い効率が求められている。OTC取引プラットフォームが採用したアカウント管理制度を用い、同時にさらに効率の良いメカニズムを使うのが良い。具体的なブロックチェーンの技術的な実現では、高い効率と安全性を兼ねたクロスブロックチェーン取引を保証するために、サイドチェンを採用した。しかし、根本的には、ブロックチェーン資産そのものの効率良い取引と支払いに対する価値の実現は困難で必要が無く、資産の価値がより重要であろう。

一言でいけば、SaaS の目的はプロジェクトの投融資をより便利にすることである。財經通の目的はプロジェクト側と投資者側が領域の情報と動きをより全面的で詳しく深く理解・観察するようになることである。そして、ブロックチェーン評価・測定はプロジェクトの全体像を描くために、その評価をするためである。また、チェーンサービスは領域全体の互惠や発展に貢献し、プロジェクトそのものをさらに良く発展するようにするためである。その四者の関係は以下の通りである：



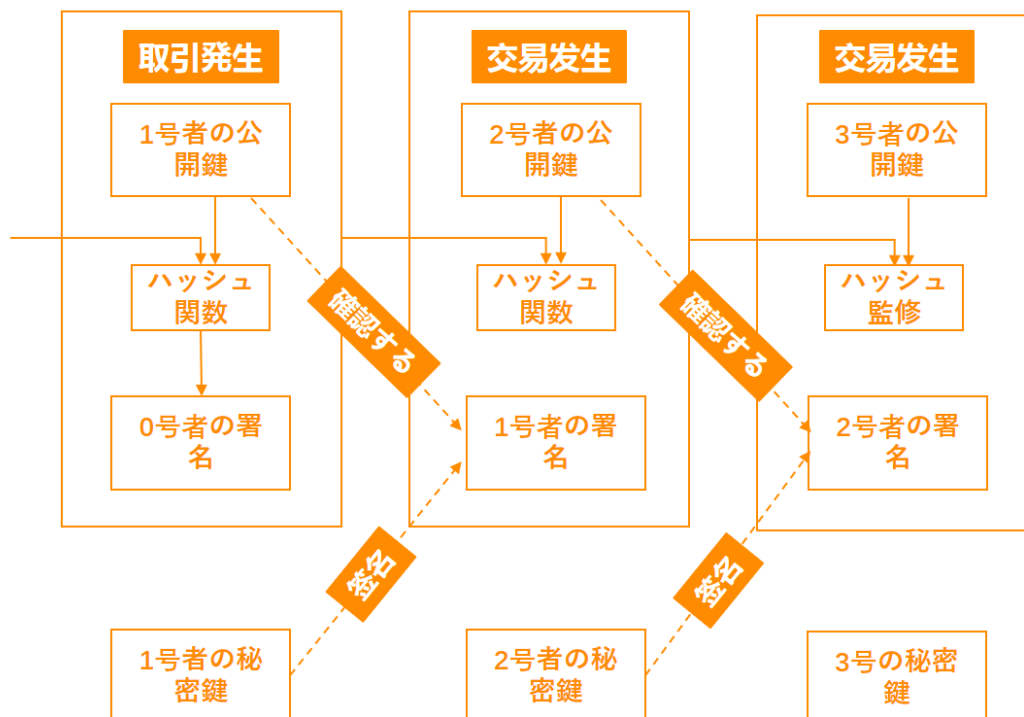
第四章、プロジェクト技術の構造と運営モード

4.1、BitCV デジタル資産管理チェーンの設計

BitCV は応用型のブロックチェーン製品である。我々はブロックチェーンとすでにある技術をデジタル資産管理の分野に用い、原則的に、基礎的な研究と開発を大規模にしない。前期の研究と開発において、我々は以下の技術を使った。

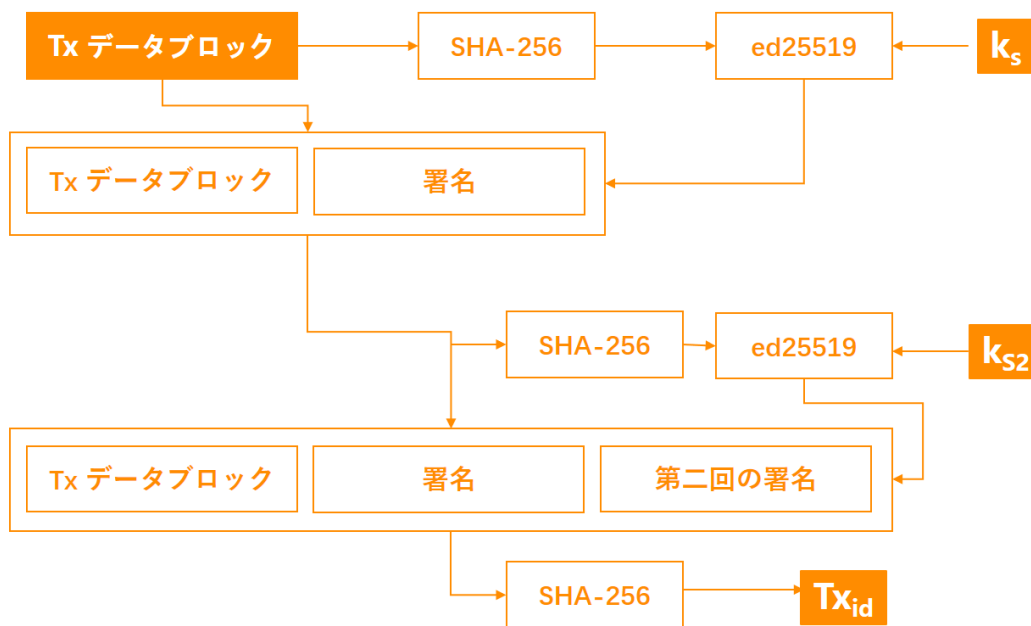
1、 ブロックチェーン分散型元帳技術

なぜサトシ・ナカモトはビットコインのベースにブロックチェーン技術を使ったのか。P2P 型の支払いを解決するビットコインは、必ず信頼できる台帳に基づくからである。ブロックチェーン技術による台帳の記録は、前後の記録につながっている。以下の図が示すようである：



次の取引に、前の取引の確認と署名が残る。したがって、一つの取引のデータを書き換えようとすれば、その以降のすべての取引データを書き換えなければならない。しかし、取引が急速に増えているので、とりわけ大規模の分散型の状況で、改ざんや偽造などが実は不可能になる。

具体的な技術実現と取引において、一つの事務データブロックが生成した後、SHA-256 と秘密鍵が生成した署名はデータブロックに追加される。これが何度も繰り返される。もし一つの事務操作に多くの段階があれば、その一つ一つの段階に署名を追加する。以下の図が示すようである。:

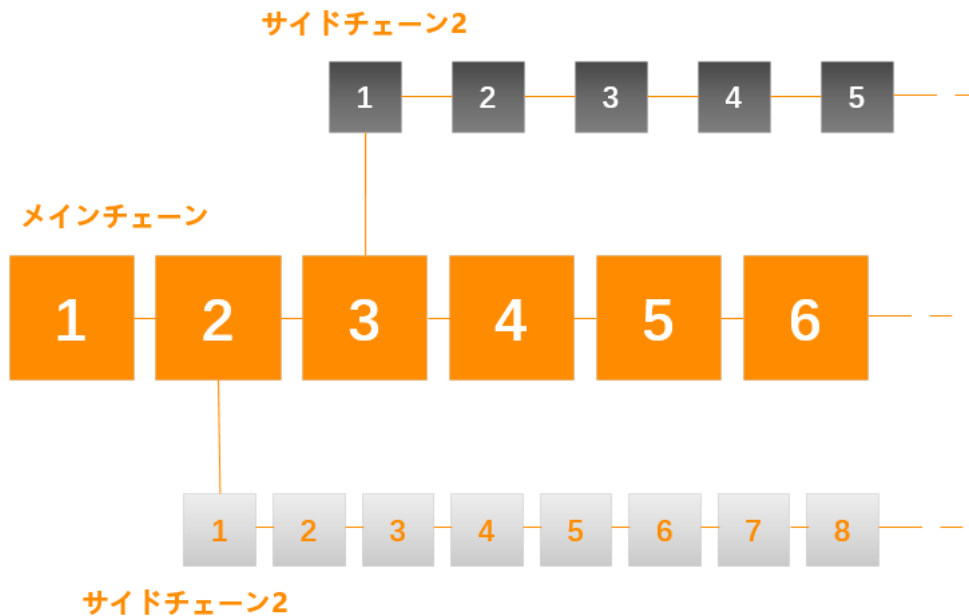


ブロックチェーン技術を利用する BitCV は、すべての資金にかかわる取引を記録する。まずはサイドチェーンまたはオフチェーンに記録と取引をする。最後は BitCV の資産管理メインチェーンに記録する。そうすれば、資産管理のメインチェーンは、取引記録の増加につれて増加しており、改ざんも偽造もできないブロックチェーンであることが保証できる。

2、 サイドチェーンとクロスチェーンの取引技術

現在のブロックチェーン技術に最も大きな問題とボトルネックの一つは、長い決済期間と、より複雑な確認手順である。基礎的なプラットフォームでは、このように双方の合意によって確認される体制が敷かれている。さらに、国境を超える支払いにとって、長い決済期間も納得できることである。国境を超える支払いにかかる時間は、伝統的に日で数えられる。しかし、小額の取引および頻繁に発生する取引にとって、ユーザーエクスペリエンスが極めて悪い。そのため、BitCV 資産管理プラットフォームに対して、我々は二つの技術を採用し、決済期間を短縮する。また、それをメインチェーンに書き込む。

効率的な P2P 分散型元帳技術。このような台帳の記録は普通である。例えば、取引所に、OTC であれ、デジタル資産の取引であれ、入金が即時に口座に届く。そのような台帳の記録は伝統的なデータベースの操作である。ブロックチェーンのデジタル資産の入金は他の方式を使う。ユーザーが見えるのはデータベースが即時に効くことが、ベースの取引処理は即時ではなく、時間がかかる。ブロックチェーンのデジタル資産の即時取引と、クロスチェーンを支える技術が望ましい。そのため、BitCV はサイドチェーン技術を使う。また、各技術を総合的に評価した後、我々は LISK プラットフォームを選択した。



ここでサイドチェーン技術を簡単に説明する。

サイドチェーン技術は、メインチェーンの複雑で長時間の取引確認を解決するためのデザインされたものである。メインチェーンの資金がロックされた状況で、サイドチェーンに低い確認率の効率的な取引が実現できる。取引が終わったあと、条件に合致すると、メインチェーンに戻る。

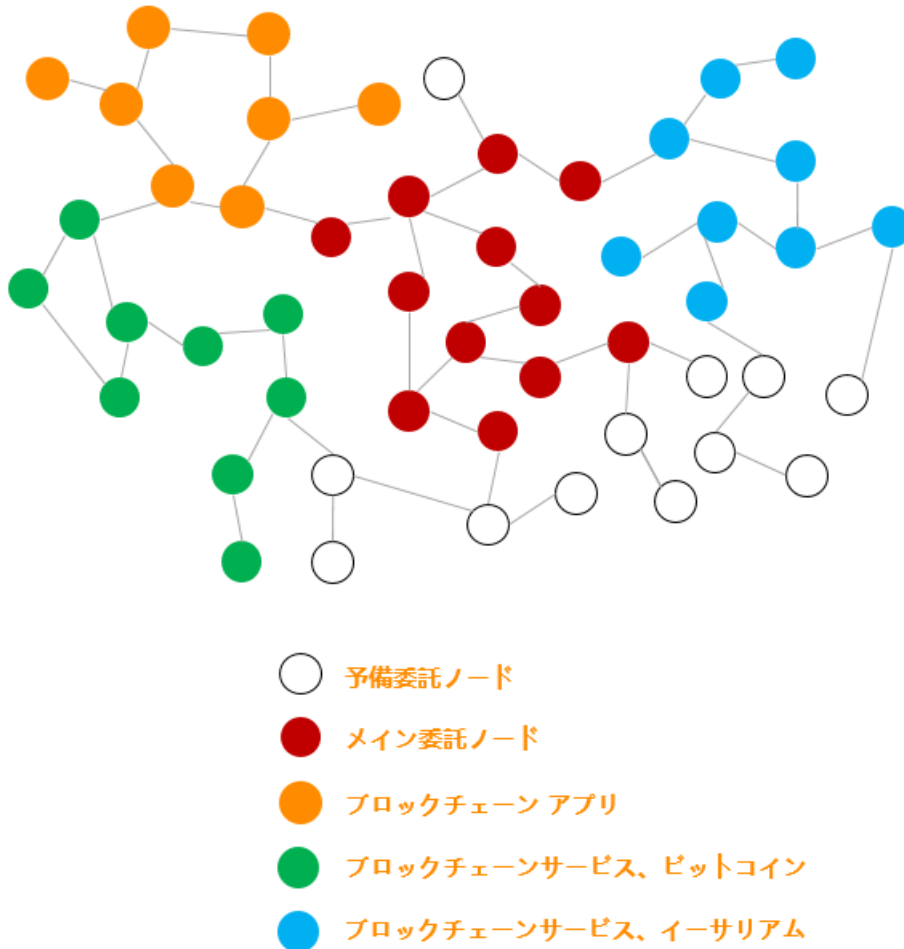
もちろん、それ以外に、中間準備資金プールを使って各デジタル資産の素早い為替と移転を支えることも考えられる。

3、 DPOS アルゴリズム

イーサリアムと LISK を基づいて資産管理チェーンを構造する BitCV は、DPOS アルゴリズムを使っている。

伝統的な POW は、大量の計算と、仕事の証明を確認する場合に適用する。つまり、計算力によってデジタル資産が生成する場合である。しかし、BitCV は素早く効率的な確認が必要なので、我々は BitShares が発明し

た DPOS を採用する。



クロスチェーンの取引に関わるため、上図を用いて多種のブロックチェーンサービスにある DPOS プロセスを説明する。

一つのブロックチェーンシステムの中で、DPOS にある数多くのノードはブロックに署名している。署名しているノードは、ブロックチェーンを使うノードが非中央集権型の投票で生成したものである。こうして、正確性と公平性が保証される。それと同時に、署名されたブロックに、前のブロックが信頼できるノードによって署名されたという証明を持っている。DPOS は決済時間を消し、ブロックチェーンシステムの間、中間アカウ

ントの体制を使い、素早く資産為替を行っている。

4、 スマート契約技術

デジタル資産の出現によって、正確な P2P 支払いができるようになった。その支払いの背後には契約の履行がある。イーサリアムシステムは、ビットコインの契約プログラミングにある不足点を改善し、スマート契約を便利に実現する。スマート契約とは、イーサリアム仮想マシン (Ethereum Virtual Machine, EVM) に行っているアプリまたはコードのことである。外部からの取引請求 (支払い請求に限らなく、ゼロ費用の支払い命令でもいい) とイベントによって発生する。事前に定義しておいた契約条件に合致すると、新たな取引とイベントができる。さらに、スマート契約はもう一つのスマート契約を執行することができる。



資産管理の毎回の取引にとって、ブロックチェーンをベースに記録すること以外、事前に定義しておいたスマート契約をイーサリアムプラットフォームに設置することができる。そして、実際の取引と命令がスマート契約を起動することを待っている。例えば、ユーザーは、購入サイクル30日、年間収益率15%の保証された付加価値サービスを購入すれば、そのサービスの時間と収益率などは全てスマート契約に書き込まれ

る。投資者の購入後、それに関わる資産はスマート契約に送られ、目的アカウントに振り込まれる。規定の時間になると、収益のスマート契約は自動的に執行し、収益も自動的に目的アカウントに引かれ、投資者に返却する。そして、取引の記録が保存され、サービスが終わるとともに、スマート契約も自動的に執行され、取引が閉ループになる。この操作は伝統的なタイミングプロジェクトもできると考えられる。しかし、過去では、この操作は仲介者を通し、契約も公開できなかった。今では、この操作はブロックチェーンに基づいて、イーサリアムあるいは他の基礎的なチェーンをプラットフォームとして、仲介者を通さず、契約のコードも誰もが見ることができる。

要するに、BitCVの資産管理チェーンは応用型の製品として、ブロックチェーンに基づいて、強化され、展開された技術を用いる。現在の状況で、相対的に成熟した技術を使うのが実行可能な方法である。

4.2、信頼と展開できるマイクロサービスの構造設計

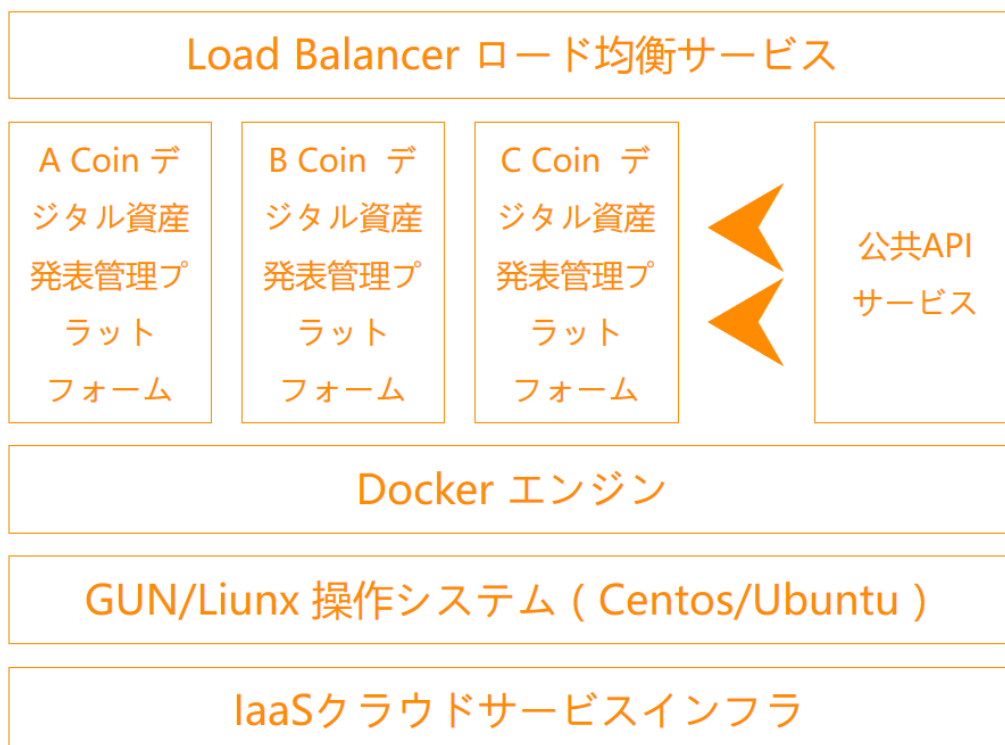
ブロックチェーンの基礎的なデジタル資産サービスプラットフォームとして、まずは SaaS クラウドサービスを提供する必要がある。すべてのプロジェクトは全世界のユーザーに向け、多端末のサポートのため、信頼できるサービスを保証することが必要である。99.99%の信頼性と、拡張、保護しやすいプロットホームの建設が我々の目標である。

また、デジタル資産管理のサービスプラットフォームとして、大量のユーザーのデジタル資産為替に関わるデータを有している。ユーザーはデジタル資産

を購入した後、それに応じたトークンまたはデジタル資産が公式ウォレットに振り込まれる。しかし、統計データと中間ストレージはプラットフォームの内部に保存される。そのためデータの安全性や暗号化保存、隔離などに対して比較的高い要求がある。

構成のデザインにおいて、採用したのはコンテナクラウドサービスで、そのプロジェクトに対して、SaaS を設定し、独自ドメイン名を設定し、独自ウェブコンテナを利用してサービスを提供する。こうしてデータの隔離が実現できる。一つのプロジェクトに、容量によって、一つあるいは多くのウェブコンテナを設定してサービスを支える。フロントエンドにロードバランサーを設置して、ストレスを分担する。

基本構造設計は以下の図が示すようである。



一つ具体的なウェブコンテナに、または公共 API サービスに、ストレスと拡

張のニードによって、分散型の構造部署が採用された。具体的な開発の実現について、まずは成熟したインターネット基礎構造設備を用いる。例えば、Webの開発に LAMP 構造を用いる。Web スクリプトからデータベースまで、バックエンドの強いストレスがある部分に、ミドルウェアを使って効率的にデータとキャッシュメモリーを処理し、データベースに保存する。異なるロジックに対して、Redis、Kafaka のように成熟した構造を採用する。

4.3、コミュニティ化の運営モード

ブロックチェーン資産管理の基礎となるサービスエンジン BitCV は、ツールと基盤となるインフラストラクチャを提供し、上位レベルの運営はコミュニティモデルの一種である。このモデルでは、BitCV は主要な意思決定ではなく、エコシステム全体を運営し提供するピアコミュニティの貢献者として機能している。次の二点のように述べることができる。

4.3.1、コミュニティコンセンサスの価値の発見

プロジェクトのサービスは、プロジェクト、投資と資金調達の開放、技術評価を除いて、最も重要な決定は、コミュニティによって行われる。BitCV の公式は監査や編集、集中化された運営管理チームを設置しない。BCV を所有しているユーザーに対しては、BCV がどれだけ所有しているか、コミュニティに参加ノードとしてプロジェクトに投票する。他のコミュニティの威信に基づいて投票のウェイトを決定する。プロジェクトが特定の投票数に達すれば、専門審査セッションに入り、最後に投資と資金調達機能を開放する。集中化され

た審査は手続きが多く、主観性が強く、審査者の個人の知識が不足などの短所によって、現在の市場で投資者のニーズを満たすことができなく、発展する機会を失ってしまう。コミュニティ運営モードの設置は、このような欠点を避ける。

4.3.2、ポイント・ツー・ポイントの専門的サービス

BitCV の構造は、基盤となるインフラストラクチャ、アプリケーションツールプラットフォーム、専門的なリソース管理サービスとの 3 つの部分に分かれている。その中で、基盤となるインフラストラクチャとアプリケーションプラットフォームは、BitCV チームによって開発され、実現され、そしてその規則もデザインされ、ブロックチェーン上で機能する。しかし、資産管理自体は、専門的なサービスなしではできない。専門的サービスは、コミュニティ向けである。管理サービスや専門家を必要とする人々は、直接ドッキングプラットフォームを介して、プラットフォームのサービスを利用できる。ここでのキーポイントは、ツールの他、専門家とレベルの判定である。その判定は 2 つの出発点に基づいている。一つは、プラットフォーム上の過去の行為と業績であり、もう一つはすでに受け取ったランクと認定された専門家によつての投票と評価である。このようにして、サービスの行為において詐欺を犯した人々を選別できるのである。

4.4、未来の製品への企画

基礎的なプロジェクトと投資者へのサービス以外、我々は以下の製品と基礎

施設を開発していく。このようにして、資産管理のプラットフォームの基礎技術サービスシステムを設ける。

- A、 ユーザーが多種のデジタル資産を保存しやすいように、クロスチェーンの支払いで多種のデジタル資産ウォレットシステムを構築する。プロジェクトに投資し、さらに、安定した投資システムを開発し、安定したデジタル資産投資を通して、資産の価値を上昇させる。BitCV プラットシステムで、安定したデジタル資産に対して、穏やかで資本金が保証される収益を得られる
- B、 プロジェクト管理者がサポートしているポジション管理ツール「余幣宝」は、トークンの所有者に飽りターンをもたらし、デジタル資産への投資は短期投資から相対的に長期投資に転換させる。
- C、 有名なデジタル資産ファンドの投資に参加できるシステムを開発する。有名なデジタル資産ファンドは一般に参加が難しいが、BitCV によって共同的に発売すれば大衆でも直接投資に参加できる。ファンド投資から利益を得るように、BitCV は小額から高額までのファンドを念入りに選択した。ある程度のリスクがあるが、相対的な収益もさらに高い。
- D、 デジタル資産と実物資産が交換できる競売プラットフォームを設ける。未来では、デジタル資産は実物資産と直接交換できる。BitCV プラットフォームに、デジタル資産と実物資産が交換できる。

まとめると、BitCV はデジタル資産管理を核として、投資者のために、多元的な投資の方式を建立している。

第五章、BitCV 財団のガバナンス構造

5.1、BitCV 財団の設定

BitCVFoundation (BitCV 国際財団、以下財団と呼ぶ) は、海外で設立された BVI 企業であり、BitCV チェーンの国際的なポジショニングと影響力に基づいている。財団は、BitCV システムチェーンプラットフォームの開発、発展、建設に尽力し、透明性のあるガバナンスと DAO モデルの管理を提唱し、デジタル資産管理とバリューチェーンの参加者と愛好者を基金会を属させ、オープンソースの社会の安全と調和発展を促進する。

5.2、BitCV 財団のガバナンス構造

BitCV 財団のガバナンス構造には、日々の作業と特別な状況に対する操作プロセスとルールが含まれている。BitCV は自然に分散された DAO ガバナンスモデルを尊重し、すべての BitCV プロジェクト参加者が BitCV 財団のメンバーであり、BitCV の開発価値と共通の策略決定力を共有する従業員である。BitCV の重要な事項が、全員の共通の投票によって決められる。開発および策略議題について、BitCV 参加者は、いつでも組織することができる。

最初の BitCV 財団の意思決定委員会は、5 人の創設メンバーで構成され、4 年の任期である。創設メンバーには、ブロックチェーン、テクノロジー、ファイナンス、メディア分野など豊富な業界経験を有する。任期後、BitCV チェーンデジタル資産の持分と BitCV 保有資産の年齢に応じて 50 人のコミュニティ代表者がコミュニティから選出され、最終的に意思決定委員 5 人が再選出さ

れる。

5.3、BitCV 財団の貿易安全性と監査

5.3.1、BitCV 取引の安全性

ブロックチェーンコンセンサス、スマートな契約やその他の技術とデジタル署名、エンドユーザーの暗号化ウォレットなどの安全性対策を介して BitCV システムチェーンは、ユーザーアカウントと財政の安全性を確保する；

BitCV システムチェーンは、データ、アプリケーション、取引をブロックチェーンクラウドに統合し、安全な取引ネットワーク環境を構築するための財務レベルの安全なデータストレージ、ネットワーク、およびプラットフォームリソースを効率的に統合する。信頼性の高い取引プラットフォームと技術的な専門家との安全な取引を構築する。

5.3.2、監査

BitCV システムチェーン委員会は、誠実かつ倫理的な業務慣行基準の高い基準を維持し、関連法規および業界の自己規律原則を遵守する。

毎年、BitCV システムチェーンは、BitCV システムチェーンの資本、コスト、利益配分の使用を定期的に監査および評価するために、国際的に有名な第三者監査員を組織する。

BitCV システムチェーンは、第三者の機関による評価と監査の結果をすべて公開する。

第六章、チームと投資者についての紹介

6.1、中心チーム



伍星 共同創業者

清華大学五道口金融学院グローバル創業リーダークラスのメンバー。2004年に北京工商大学を卒業。和君第六回自組織管理チームの中心メンバー。開心ウェブサイトの創始チームのメンバー。高級フルスタックエンジニア。国内におけるIT職業教育優才学院を創業し、多様な融資を受け、開心ウェブサイトの数億ものUVデザインやパフォーマンスの最適化を主導し、99.99%以上の信頼性のあるサービスを実現した。

役割: 基金の技術とプロジェクト総体の戦略企画。



熊家貴 共同創業者

清華大学を卒業。Sinaのプロのベテランエンジニアであった。愛問爬虫グループのリーダー、開心ウェブサイトの首席エンジニア。Linux、Unixのベース開発の専門家で、独立でストレージ、通信など様々な中間サービスを実現した。開心ウェブサイトの数百万ものインスタントメッセージシステムの設計を主導した経験を持つ。役割: デジタル資産システムのベーシックプロトコルと信頼性のあるベーシックプラットフォームの設計などの主導。



劉志華 共同創業者

フルスタックエンジニア。2004年に北京工商大学コンピューター学科を卒業。ハリバートンに就職した。中国石油天然気集团公司、中国石油化工集团公司など大手会社の石油サービスデジタル化システムの開発に参加した。開心ウェブサイト初期の技術チームのメンバー。販売営業支持管理部の仕事を担当した。2013年に技術責任者として中国人民大学デジタルスクールを開発し、2014年に優才創智に入社し、CTOを務める。インターネット製品のデザイン、Front-endとbackstage supporter 多種技術開発管理が得意である。



文玲 共同創業者

北京大学投資管理学の修士。アップルのエンジェル投資者「華人創投資の父」李宗南の中華区域の助役。アメリカShan Kwong 資本の中国市場の責任者。インターネット会社K12 通信制教育会社の共同創業者。今のPPTEAM プロジェクトの創業者。一流のインターネット創業会社や投資会社の管理者に魔法的な表現技術サービスを提供している。パートナー企業にはテンセント、今日頭条、国家电网など大手会社がある。



阮穎 共同創業者

南開大学を卒業後、北京大学の光華管理学院中国企業経営者第33回でExedで勉強した。「renren games」の早期創業者であって、ウェブゲームの先駆者、そして海外の運営モードの創始者でた。後に、「開心網」管理チームに参加し、総合的に製品と業務を担当してきた。



段思程
定量化、リスク管理担当者

香港住民、コンピュータ専攻者、米国の修士号を獲得した。元シカゴ先物取引所のフルスタック開発者、Globex、SpanMargin、FedWatchなどのコア製品の研究開発に参加した。先物取引とオプション取引を深く理解し、長期的に市場でプラスのリターンを維持してきた。現在、BCVにおける定量化、リスク管理および市場価値管理を担当している。



張瀛瑩
販売、CR 担当者

2007年、よく知られているインターネットサービス会社「互連通」で、最初の百万規模なトレードを完成した。何度もトップセールスを創り出した。チームを率いて、年間売上1000万ドルの売上を創出した。2013年、世界をリードする外資系大手ビッグデータ会社で、全国の大学及び政府の市場を担当した。2017年、会社「共享プラス」を設立し、Didi、Sootoo及び有名な人工知能会社「海知科技」、有名な営企業など多くの企業と提携する。



趙延鶴
市場開拓担当者

TOPRANDのビジネスマネージャーであった。サービス相手には、ファーウェイ、京基不動産、香港雅蘭集團、楊梅紅教育集團、宏電株式会社などがある。2014年、「優才創智」に加入し、BD&マーケティング監督としてマーケティング、ビジネス、ブランド計画を担当した。技術コミュニティの参加者であり、複数のフルスタックおよびオープンソースコミュニティの技術コミュニティを創立して管理する。

6.2、プロジェクトの顧問



馮新

炭素9 加速器の創業者



喬帥

清科晨光のパートナー



朱波

創新谷基金の創業者



劉江

星輝資本創業パートナー



吳澍

エンジェル投資者



黃天威

ビットコイン時代の先駆者



江恩

ドージコインの会長



陳菜根

為友資本のパートナー



徐繼哲

亦来云の共同創業者、ブロックチェーンの
専門家



黎躍春

孔杏学院の創業者と CEO



程炳皓

開心ウェブサイトの CEO、投資人



羅飛

国内 AI 開発の先駆者



徐昕泉

樂視集團ロシアと東ヨーロッパの総裁



王朝薇

維瓴財富の創業者

6.3、組織

GENESIS

创世资本

创世資本



星輝資本



炭素9加速器



廣禾資本



夢工場基金



創新谷基金

第七章、デジタルトークンの発行と使用

7.1、BitCV デジタルトークン BCV についての説明

BitCV デジタルトークン、BitCapital Vendor Token を簡単に言えば、BCV と呼ぶ。これは BitCV Foundation による公式に発行した原生的なコード化暗証番号である。清算、交易、またはスマート契約の実行などのため、BCV はイーサリアムにおける ERC20 に基づき、スマート契約によって作成させる。

デジタルトークン BCV を合計 12 億枚発行し、BitCV によって一度で作成させる。その総量は制限させ、変えることも増やすこともできない。デジタルトークン BCV は一定の規則や比率によって異なる株主に配り、その中で一定の比率の BCV は適当に特定の消費者に向かい、資金を募集する。この資金はブロックチェーンのベーシック建設、製品モードの開発、アプリケーションの環境、基金会全体の運営と維持などに使われる。

デジタルトークン BCV の株主は投票で記帳者を選挙できる。また、他の株主と一緒に基金と BCV のデジタル資産に関する重要な出来事の決定に参加できる。

7.2、BitCV デジタルトークン分配方針

比例	数量	方案	备注
40%	4 億	株式割当発行	基金運営のため（主に開発、マーケティング、運営などのコスト）。
25%	2.5 億	チームへの激励	開発するとき、努力したまたは成果のあるチーム。トークンは一年間ロックされ、流通できなくなる。ロック解除後毎月 10% ずつ放せ、10 ヶ月にそれを完成する。
30%	3 億	資管生態の建設	高品質なサービスを提供するため、デジタル資管の建設にはたくさんのパートナーと上下流の生態資源の整理が必要である
5%	0.5 億	顧問、アドバイザー、サイバーセキュリティ会社と資源団体	デジタル資管の建設には外部の技術の専門家、業界の専門家、または顧問の支持が不可欠である。

7.3、BitCV トークン発行計画

トークン BCV の発行は厳しく、世界各地の法律に従い、適度な方法で顧客に向けて発行する。発行数量は合計 12 億枚、その中の 40%、つまり、4.8 億枚は社外に向けて販売する。具体的な募集方法は以下のように示す。

時間: 2018 年 1 月 26 日午後 8 時から 1 月 31 日午後 8 時

方法: 基金や組織、特定のグループの招待

額: 30000ETH

期間: 5 日

価格: 1ETH=16000BCV

証券取引所で公式売買する

時間: 2018 年 3 月上旬

7.4、BitCV トークンの利益モデル、支払い方法と再購入企画

BitCV は、応用型ボトムチェーンと結びつく適用業務向きブロックチェーンのため、利益は速やかに儲かる。デジタル資産やサービスの費用を支払う時、デジタル資産トークン (BCV) で支払うことができる。システムの費用、コンサルティングサービス料、分権的なポイント・ツー・ポイントの人件費も含まれている。例えば、ツールサービスを購入する時、モデルを評価する料金を支払う時、専門的な説明と評価する料金を支払う時、クイックポイント・ツー・ポイントペイメントとプラットフォームの中の取引にも BCV で支払うことが応用できる。我々の請求料金は以下の通り示している：

- ・ **基本的なチェーンシステムに対するクロスチェーントランザクション損失手数料のこと**
- ・ **下位のチェーンの上位層 API 使用に発生するガス (手数料) のこと**
- ・ **Daifabao や Yubibao などの製品のプラットフォームの使用料のこと**
- ・ **資産管理サービスのプロフェッショナルサービス料を支払うこと**
- ・ **Daifabao などの製品のマイナーの手数料のこと**
- ・ **プロジェクト SaaS プラットフォームの使用料金**

- ・ **IRM の年費**
- ・ **追加料金とコンサルティングサービス料金**
- ・ **人材育成の費用と投資者の年費**
- ・ **プラットフォームの取引手数料**

すべての料金の支払いは、通用デジタル資産のできる場合では、BCV で支払うことを優先する。

- ・ **サービス料、取引手数料を支払う時、BCV で支払うと 50%値引きする**
- ・ **プロジェクトの詳しい評価レポートを購入する時、BCV で支払うと 50%値引きする**
- ・ **研究報告を褒美したり、チップをやったりする時、BCV で支払うと 50%値引きする**
- ・ **ポイント・ツー・ポイントサービスを購入する時、BCV で支払うと 50%値引きする**

BitCV は応用できる場合を拡大し、BCV ビジネスシステムの自主的コミュニティ運営、使用上の豊富さと多様性を加える。そうして、使用者が証券取引所で BCV を再購入でき、BCV の株価が長期的に安定した上がることを確保できる。最後に BCV の株主の収益を実現させる。

第八章、プロジェクトのマイルストーン及びロードマップ

2017年9月:	プロジェクト初期の企画を始める
2017年11月:	プロジェクトの原型、商品のデザインと企画を完成する
2017年11月:	チームを初めて作る
2017年12月:	プロジェクトの白書の第一版を作成し、公式にプロジェクトの開発を始める
2018年1月15日:	第一版の商品原型 Demo を完成する。白書 V1.1 版の作成
2018年1月中旬:	エンジェル投資者が始める
2018年1月末:	BCV の発行と両替
2018年2月初め:	プロジェクト展示用のプラットフォームと「余幣宝」を運営しはじめる。
2018年3月初め:	BCV は取引所に上場する。投融資プラットフォームを試運転する
2018年3月中旬:	チェーンサービスを運営しはじめる
2018年4月末:	チェーンイヴァリュエーションを運営しはじめる
2018年8月:	デジタル資産を運営しはじめる
2019年3月:	デジタル資産の環境を整える

第九章、法務関係とリスク開示書

9.1、BitCV デジタル資産の法体系

BitCVプロジェクトは海外で一つのBVI会社を設立する。つまり、BitCV Foundation、BitCV基金である。その基金は独立法人として、チームを作ってBitCVデジタル資産というプロジェクトの開発、宣伝、運営を行う。またすべての責任を担う。

BitCVデジタル資産基金は厳しく、BVI所在地の法律に従い、適度な方法によって特定のお客様に資金を募集し、トークンBCVを渡す。いくつかの国の中では国民や団体に法律上の制限があるので、これらの地域にクラウドファンディングやファンドレジングを行わないようにする。トークンBCVは証券ではなく、投機的な投資ツールではなく、実用的な仮想アイテムやトークンとして使用される。

トークンBCVの売買から得た収益BitCVデジタル資産基金によって、技術開発、マーケティング、コミュニティの建設、財務審査、ビジネス協力など通常運営に使われる。

BitCVデジタル資産は全世界において濃くなる国々の審査機関に追求される可能性がある。また、所在地の法律に従うため、BitCVデジタル資産のサービスを提供できなくなる危険性もある。

9.2、リスク開示

- ・ 政策上のリスク

今の段階では、中国のデジタル資産とスワップ取引への管理制度はまだ明確ではないため、政策による参加者の利益を損なう可能性がある。マーケティングの中、デジタルアセットマーケティング整体的な価格を過大に評価するとともに、投資のリスクが高まり、参加者のスワップ取引への期待も過剰になる。だが、これらの過剰な期待は実現できない可能性がある。

- ・ **規制リスク**

BCVを含めるデジタル資産についての取引は非常に変わりやすい。デジタル資産領域には厳密な規則が足りないため、デジタルトークンが高騰するか暴落するか、またはバンカーによる価格操作などの危険性もある。経験が足りないため、個人参加者はこれらの株を入手すると、不安定なマーケティングからの資産衝撃や圧力に弱くなる。専門家、マスコミなどは参加者に慎重な姿勢を守ろうと呼び掛けているが、厳密な規則や条約がまだ形成されていない。そのため、このようなリスクは避けられない。無論、将来的には、ブロックチェーンやデジタルトークンへの規則が必ず登場する。もし規制機関がこの領域に踏みこむと、スワップ取引時に購入したトークンに影響を及ぼすかもしれない。これは価格と市場性の変化なども含まれている。

- ・ **チームリスク**

今ブロックチェーンの領域にはチームやプロジェクトが数多くある。つまり競争が大変激しいと言える。マーケティング競争やプロジェクトの運営圧力も大きい。これらの優秀なプロジェクトの中にBitCVプロジェ

クトは突破できるかできないか、または参加者に認められるか否か。これはBitCVチームの能力やビジョンプランニングにかかわるだけでなく、市場における各競争者からの影響にも関わり、悪性の競争に落ちる可能性もある。BCVは創業者たちの長年の人脈に基づき、一つの活力も実力も備えるチームを作り、金融メディアとブロックチェーンの専門家や豊富な経験を持つ技術開発者を集める。BCVの整体発展にとってチーム内部の安定性と凝集度は非常に大切である。

今後、中心メンバーの離脱やチーム内での矛盾によるBCVの整体評価に悪い影響を与えるリスクがある。

・ 包括的な管理リスク

BCVチームはベストを尽くし、白書の発展目標を実現させ、プロジェクトの成長空間を拡大する。今のBCVチームはもう成熟な商業や背景資源を積んだが、業界整体発展の未来は予想できないので、今のマーケティングモードと包括的な管理思想がニーズに合わず、収益が上がらない可能性もある。また、この白書はプロジェクトの細部の更新とともに調整を行う。仮に参加者はプロジェクトの更新した情報を認識せず、または公衆はプロジェクトの最新情報を知らないと、参加者または公衆は新しい情報が足りないため、このプロジェクトの発展に影響する。

・ 技術上のリスク

まず、このプロジェクトはブロックチェーンやパソコン研究開発技術に基づくため、技術の早い発展もこのプロジェクトに潜在的リスクをもたらす。また、ブロックチェーン、分散型台帳技術、非集中化、改ざん

防止などのような技術がこのプロジェクトの核心なので、BCVチームはこれらの技術をすべて時代に遅れないようにすることを確保できない。そして、プロジェクト更新調整の時、セキュリティー上の脆弱性を見つけたら、修正パッチの形で見直すことができるが、セキュリティー上の脆弱性による影響の大きさを保証できない。

・ 安全上のリスク

安全性の面においては、一人の株主の持つ株が少ないが、合計人数が多いため、安全保障の必要性が非常に高い。トークンが匿名で追跡しにくいため、犯罪者に利用されたり、ハッカーに侵入されたり、違法資産移動に関わったりする危険性がある。ブロックチェーン技術と業界全体の発展とともに、BCVチームは予想外のリスクに直面する可能性もある。このプロジェクトに参加する前に、参加者の皆さま、どうぞ私たちのチームの背景やプロジェクト全体のデザインと考えを認識し、合理的に自分の期待を調整し、理性的にトークンスワップ取引に参加してほしい。

9.3、免責事項に関する声明

本稿は情報を伝達することのみに使用する。文章内容は参考として扱う。BCV及び関連の会社で株券や証券を売るのに対する投資アドバイス教唆、招待ではない。こういった招待は機密備忘録を通じて進めなければならない。なお、証券法と関連する法律にも適わないといけない。本稿の内容が交換に加わるのを強制すると解釈してはいけない。本白書に関するすべての行為が

交換に加わると見なされない。白書のコピーを取ったり、他人に本白書シェアしたりするという行為も含まれる。交換に加わるには参加者は一定の年齢に達しており、完全な民事行為能力を有し、BCVとの契約は真実で有効でなければならない。すべての参加者は自分の意志で契約書を交わし、その前にBCVに対する十分な理解が必要である。

BCVチームは合理的な試みを進め、本白書の情報の正確さを確保する。開発の過程で、プラットフォームを更新することも考えられる。プラットフォームのメカニズム・通行許可証及びそのメカニズム・通行許可証の配属状況は含まれているが、それらのみには限らない。プロジェクトの進展に伴い、本稿の一部の内容は新版の白書で調整するかもしれない。チームはウェブサイトで公告を発表し、或いは新版白書の形で、更新内容を公布する。参加者の皆様はすぐに最新版の白書を手に入れ、更新内容に基づいて自分の戦略を調整してください。BCVは明確に以下の行為一

1. 本稿の内容への依頼;
2. 本稿の間違った情報;
3. 本文が引き起こしたすべての行為による損失の責任を取らないことにする。

チームは全力を尽くして本稿に言及した目標を実現したいと思うが、不可抗力があるため、チームは完全に完成すると承諾できない。

BCVはプラットフォームが効果を発揮する大切なツールで、投資品ではない。BCVを有するのが持ち主にBCVプラットフォームの所有権、コントロー

ル権、戦略の決定権を与えることの象徴ではない。数字暗号化通行許可証としてのBCVは以下どの類別にも属されていない。

(a)すべての種類の通貨;

(b)証券;

(c)法律実体の株式所有権;

(d)株券、債権、手形、ワラント、証書あるいはその他の権力を与える文書。

BCVの価値が上昇するか否かは市場規則及び実施した需要次第である。何の価値もない可能性もある。チームはその価値上昇に承諾しない。また、その価値の増減による結果に責任を取らない。本チームは法律許可の最大範囲で、交換に加わることによる損害やリスクの責任は取らない。直接・間接の個人損害やビジネス利益の損失、ビジネス情報の紛失、他の経済損失は含まれているが、それらのみには限らない。BCVプラットフォームは交換業の健康的な発展により管理条例及び自律開示書などを守る。参加者が参加することイコールこういった検査を完全に受け入れる。それと同時に、こういった検査を完成するための参加者が提供する情報は完全で正確でなければならない。BCVプラットフォームは明確に参加者に可能なリスクを伝達した。参加者は一旦交換に加わるには、細則の各条項説明を理解して同意し、本プラットフォームの潜在的なリスクを受け入れ、その結果を自分で負うことを認めなければならない。